

しんまちだよりネットワーク版

府中市では「住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまちづくり」の実現のため、地域のネットワークづくりを行っています。地域の皆さんがいつまでも住み慣れた地域で暮らしていくためにどうしたらいいのか、ご自身で取り組めることは何なのか、を考えるきっかけにしていいただければと思います。

地域包括ケアシステムの中の医療①



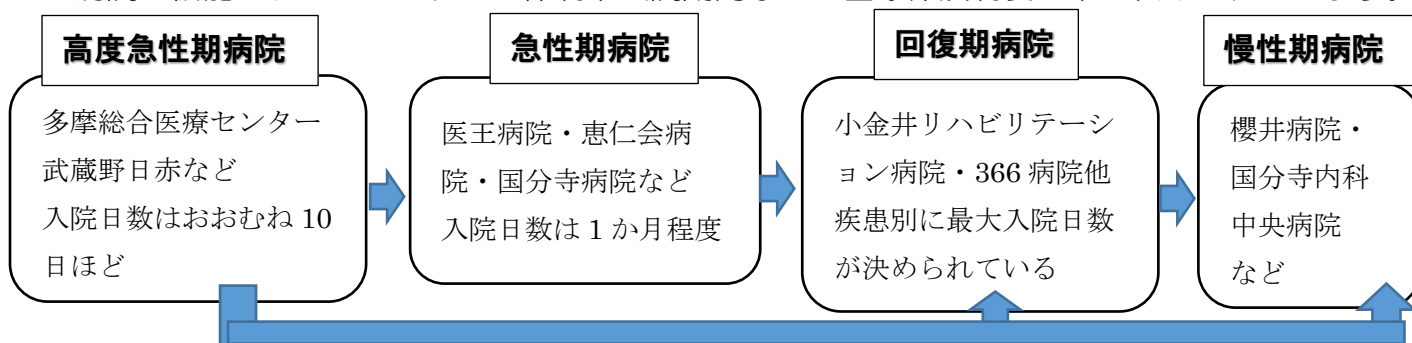
今回は、住み慣れた地域や自宅で日常生活を送るための体制づくり、「地域包括ケアシステム」の中の医療についてお話ししていきます。高齢になると何かしらの持病を抱えている方が多くなります。持病のない、お元気な方でも急病で入院を余儀なくされる場合もあります。皆さん、かかりつけ医はいますか？病気知らずの方でも、年一回の健診や風邪など普段から診てもらえるかかりつけ医を決めておきましょう。

医療機関の機能

入院施設のある病院は以下の表にあるように大きく 4 つの機能に分かれています。

高度急性期	病気が始まり病状が不安定かつ緊急性を要する期間
急性期	病状の早期安定に向けた医療の提供
回復期	急性期医療が終了した患者さんに対し在宅復帰に向けた医療やリハビリの提供
慢性期	長期にわたって療養が必要な患者さんの入院

病院の機能によってスタッフの体制や入院期間などが医療保険制度の中で決められています。



急病で倒れた場合、上の図のように高度急性期病院に入院になりますが、入院日数が決められているため、病状の治療や回復の度合いでその方に適した病院へと転院になります。回復期病院は脳血管疾患だと 180 日間、大腿骨骨折だと 90 日間など入院可能な最大日数が定められています。また、一つの病院の中に急性期と回復期など複数の病棟を持つ病院も多くあります。ここで知っていただきたいことは、治療やリハビリの必要がなければ入院できないということです。

例を挙げると圧迫骨折は非常に痛みが強く、一時的に全く動けなくなる方もいますが、基本的に安静にしているしかありません。入院しても治療がないため自宅療養となる方が多数です。

今回は在宅で受ける医療について取り上げます。

